

☆ねらい

be 動詞と一般動詞（3 単現の s を含む）の英文の違いがわかり、それぞれの文を疑問文・否定文に書きかえることができる。

☆扱う場面

1 年生、3 単現の s を学習したあと、これまでの動詞の復習を兼ねて、動詞を見分ける、動詞によって疑問文・否定文に書きかえるルールに慣れるためのドリル学習として扱う。

☆指導の手順と留意事項

学習活動	指導の仕方・留意点等
①【エキスパート活動】 be 動詞、一般動詞、3 単現の s の文のルールをそれぞれのグループで確認し、疑問文・否定文への書きかえをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ be 動詞を制覇するグループ、一般動詞を制覇するグループ、そして 3 単現の s を制覇する 3 つのグループに分ける。 ・それぞれのグループで、相談しながらプリントに沿って、【1】から【3】までを解かせる。このグループでは教え合うことが大切。どの生徒も自分のグループの項目について、専門家（エキスパート）にさせる。 ・プリントの下にあるまとめの部分を記入させる。まとめをさせた後、ジグソー活動に移らせる。
②【ジグソー活動】 グループがちがう 3 人が新しいグループとなり、①のエキスパート活動でまとめたことを、お互いに発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードなどを使い、自分が制覇した項目について、他の 2 人に説明をさせる。（例：be 動詞を制覇したグループの生徒には、一般動詞を制覇した生徒と 3 単現の s を制覇した生徒に説明させる）。 ・お互いに質問したり、その質問にきちんと答えたりできるようになることが望ましい。
③【クロストーク活動】 お互いの説明を聞いた後、3 人で一緒に問題を解いていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・ be 動詞、一般動詞、3 単現の s を含む英文を、疑問文・否定文に書きかえるドリル学習を行わせる。あえて応用問題を入れ、エキスパートの生徒がリードできる場面をつくる。
④ 書きかえた疑問文・否定文の答え合わせをし、英文を音読練習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 人で一緒に解いた疑問文・否定文の答え合わせをし、英文の音読練習をさせる。
⑤ 自己評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動詞の違いがわかったか、疑問文・否定文への書きかえができるようになったかの観点で自己評価をさせる。授業の感想を書かせる。